

平成30年度第6回下関市公立大学法人評価委員会議事【要旨】

平成30年11月20日(火)9:55~11:25

下関市立大学 本館 棟205教室

下関市公立大学法人評価委員会

: 前田委員長、江里委員、藤上委員、佐藤委員、佐伯委員、事務局

公立大学法人下関市立大学

: 荻野理事長、川波学長、高橋学部長、砂原事務局長、法人事務局

1. 開会

2 議事

(1) 中期計画の策定について

委員長	「中期計画の策定について」審議に入る。 まずは、前回の検討状況について法人から報告をお願いする。
理事長	中期計画番号47(法令遵守の徹底)について検討した結果、「整備」も広い意味で「見直し」にあたりと判断し、修正は行わないこととした。
事務局	それでは、前回の続きのヒアリングを実施する。
	<b>大項目 教育に関する目標を達成するための措置</b> = ヒアリング =
	<b>【中期目標前文】</b>
委員	中期目標に「学部学科の設置等と含め、教育研究組織の在り方、新たな学問領域への参画について」とあるが、どういうイメージがあるか。
理事長	下関市においても人口減少等が進む中で、大学として、現在保有している資源を活用しながら、新しい産業分野について検討しようとしている。大学としてアンケート調査も実施しており、その結果や、市の産業政策、人材育成などのニーズを汲み取り、検討したい。
委員	新しい学部をつくる時に、何らかの特長がなければ、全国から、また市内からの優秀な学生は集まらない。今、地域に求められているのは「社長」としての資質等を学ぶ学科である。他大学では「企業塾」というものがあるが、「塾」ではなく、「学科」としてつくっていただきたい。
理事長	ビジネススクールでは、次期社長を養成することもあれば、さまざまな分野の専門家としての人を教育することもある。大学院では欠員が続いているが、ビジネススクールをつくるには高いハードルがある。学士課程では、経営学を中心に考える可能性はある。 また、他の方法として、経済界と協力しながら、寄附講座的に実施することも可能と考える。

	<b>【中期計画番号 5 (グローバル化への関心の涵養)】</b>
委員	海外研修経験者を毎年度延べ 100 人以上とあるが、学生への経済的支援がなければ実現は難しいのではないか。
学長	来年度から大学の予算で経済的支援を行うこととしている。これまでも同窓会等からの寄附により実施してきたが、これを大学予算の中に組み込む。昨年度、今年度と 150 人程度の実績がある。
	<b>【中期計画番号 9 (ディプロマポリシーに基づく教育の充実)】</b>
委員	かつて、修士論文(プロジェクト研究の成果の報告書)で、指導教員が承認したものが、審査で落ちたということがあった。こういうことがあると、大学院への進学に不安を覚えるが、この件は、個別的な事案であったのか、制度的な問題であったのか。
理事長	審査委員会で「可」とされても、制度的には研究科委員会で「否」となりうる。ご指摘の件では、白票もあり否決された。健全ではないと考えている。
	<b>【中期計画番号 12 (リカレント教育への取組)】</b>
委員	18 歳人口が減る中、リカレント教育、社会人入学が非常に重要となるが、具体的な対応策はあるか。
学部長	社会人入学の定員は 5 名であるが、最近では志願者がいない。入学のほかに、科目等履修、公開講座などにより、地域のニーズに応じたテーマを開講し、社会人に対しての授業を提供したい。
委員	文化振興財団では、市からの委託を受けて、生涯学習の観点から講座を「出前」しているが、ここでの計画は、「大学に来てもらって」学ぶのか。
事務局長	大学に既にある教育コースを活用するのであれば、場所は大学となる。しかし、これからはビジネス街に出て行って、講座をすることも必要だと考える。
委員長	現在、サテライト教室のようなものはあるか。
学長	現在はない。常設で持つのではなく、特定の曜日・時間に借りるということも検討したい。
	<b>【中期計画番号 13 (求める学生像の明確化)】</b>
委員	AO 入試などでは、アドミッションポリシーがあまり有効でないことがある。「見直し」とは、そういうことへの対策か。
学長	内部質保証の体制の整備のためである。3 つのポリシー(ディプロマ、カリキュラム、アドミッション)を一貫した形で明確にする必要がある。そのため見直しである。
	<b>【中期計画番号 15 (質の高い学生の安定的確保)】</b>
委員	「下関市内からの優秀な進学者の増加」とあるが、個別に高校生に対応するなど、何か策があるのか。
学長	市内に優秀な高校生がいても、その者が経済学部以外の分野を希望していれば

	ば獲得できない。他分野に興味をもっている優秀な進学者を引き寄せるためにも、新しい学問分野へ挑戦したい。
	【中期計画番号 19 (大学院入試制度の見直しと広報の強化)】
委員	大学院の欠員への対策はあるか。
学長	平成 29 年度の評価の際に、教員の熱意が欠けているのではないかと指摘があった。教員評価で、大学院教育や実績を評価するようにしたい。
委員	修士課程の定員は、教員一人ひとりの努力によって達成すると思う。
委員長	日本では、社会科学分野における大学院進学へのインセンティブが低い。一方、中国、ベトナムなどは修士課程進学に対する意欲が高い。外国人留学生の確保のために、協定を結び、受け入れることは可能か。
学長	協定に基づき、中国からの留学生の受入を実施している。私は、学部卒業生、社会人、外国人留学生がバランスよく入学することが望ましいと考えている。大学院修了後の道筋を示すことが大事だと思う。
	【中期計画番号 21 (キャリア支援の充実)】
委員	「毎年度、就職決定率 95%以上」とあるが、これは妥当な目標値か。
学長	6 年間という期間の中で、経済状況もどうなるかわからない。堅実なところで、最低でも 95%を達成したいと考えている。
委員	市大といえば、就職が売りなので、自信をもってやっていただいていると理解している。
	【中期計画番号 22 (下関市内企業を学生に認知してもらうための取組)】
委員	「下関市内への就職の促進を図る」とあるが、数値目標は掲げないのか。
学長	COC + 事業にも参加しており、下関市、関門地域への就職についてできるだけ実績を上げたいと考えている。しかし、学生に対して、強制的にこの地域に就職するように言うことはできないので、学生がそこを選ぶことが重要で、そのためには、認知してもらうことが必要である。
	<b>大項目 研究に関する目標を達成するための措置</b> = ヒアリング =
	【中期計画番号 26 (独創性及び特色のある高水準の研究の推進)】
委員	研究推進のためのいかなる体制を作ろうとも、教員に研究をしようというモチベーションがなければだめである。研究費をもらっている以上、そこには市民の税金も入っている。教員一人ひとりが、1 年間に 1 本以上の論文を書くことを義務にしてほしい。
学長	教員評価制度があるので、それぞれの教員が何本の論文を書いているかは把握している。ご指摘のように、1 本も書いていない教員はいる。その年に論文を書いていなくても、一生懸命研究をしている者は、そのうち著書を出したりする。しかし、年度ごとの評価であるため、論文最低 1 本、学会報告 1 回は、

	研究者としてあるべき姿であると思う。
委員	中期計画に「論文 1 本以上」を明記すれば、まわりからも書いていないことを指摘でき、効果があるのではないかと考える。
学長	他大学の例では、論文がなければ、翌年度の研究費が減額になるところ、学部としての基盤経費がカットされるなど、ペナルティを科しているところもある。
委員長	委員指摘の文言を入れることができるかどうか、検討をお願いします。
委員	「本学教員の独自性を活かした・・・」の文章の主語は誰か。
学長	大学が全体として、ある方向の研究ということではなく、多様な教員がそれぞれの問題意識、テーマに基づいた「独自性のある」研究を推進するということである。主体は、個々の教員である。しかし、チームを組んで、大きなプロジェクトを推進するようなことにもチャレンジしたいと考えている。
	<b>【中期計画番号 28 (科学研究費助成事業等への申請・採択の向上)】</b>
委員	先般、出身大学の同窓会に出席した。配布資料の中に、科研費の申請、採択の状況のリストがあった。どの教員がどういった研究で申請を行い、その結果が示されたものであるが、このように公表すると、申請しない教員に対してプレッシャーを与えることができるのではないか。
学長	そのような一覧表を作成し、教授会では示している。また、大学案内には、採択された教員名と研究テーマを掲載している。
委員	もっと学生が知るような工夫を行えば、申請していない教員へのプレッシャーになると思う。
	<b>【中期計画番号 30 (研究倫理の遵守)】</b>
委員	表現の問題であるが、「未然に防止する「ために」、研究倫理を遵守する「ための」」と、「ため」が二重に使われている。「未然に防止する「ことを目的として」」のようにしてはいかかが。
理事長	検討する。
	<b>【その他】</b>
委員	卒業生が、母校で教員として活躍する姿は、在学生にとっても刺激となる。
学長	市大の卒業生が活躍していることは知っている。実際の教員採用となると、審査があるが、一般論として、出身者が母校で教員となり、学生にそういう姿を見せることは効果がある。
	<b>全体のとりまとめ</b>
委員長	本日のヒアリング結果を踏まえて意見書を作成する。 各委員には、メール等で確認させていただく。 その他意見はあるか。
委員	この中期計画にキャッチフレーズがあればわかりやすいと思う。考えていた

	だきたい。
事務局	検討したい。正式にここに掲げるか否かは別として、中期計画のキャッチフレーズなので、大学で考えていただきたいと考える。
委員	市長が大学で講義することはあるか。
理事長	ある。

### (2) その他

事務局	今後の開催予定(3月ころ)について説明
-----	---------------------

= 本日の審議終了 =

—閉会—